

東北画 は可能 か? ハマカル アート プロジェクト 2025 成果展 於山形市

2026年2月4日[水]→14日[土]10:00—19:00
THE LOCAL TUAD ART GALLERY

山形県山形市本町1-5-19 やまとクリエイティブセンターQ1 1階[1-G]



二〇二六年一月五日[木]→八日[日]10時—17時
福島県双葉郡猪苗町大字北田字中満二六〇番地

東北画
は可能
か?
ハマカル
アート
プロジェクト
2025
成果展
於櫛葉町



東北画は可能か?について

二〇〇九年に東北芸術工科大学で、
東北における美術のあり方を考える活動として、
日本画コース教員の三瀬夏之介と
洋画コース教員の鴻崎正武(当時)を中心に
スタートしたプロジェクトです。
日本のアートシーンが首都圏に集中するなか、
そこから遠く離れた東北において、
その地域名を冠した絵画や芸術の現場が
成立する可能性を探る試みとして立ち上がり、
二〇一三年より洋画コース教員の狩野宏明が加わりました。
二〇一一年の東日本大震災に始まり、
新型「ロナウイルスの蔓延」といった時代の激動の中で、
「いま」、「ここ」、そして「わたし」が交わるところに
各々の「東北画」が生まれると設定し、
地域や歴史の勉強会「フィールドワーク」、
地域型アートプロジェクトへの参加、
共同制作などを実行してきました。
そこから生まれたイメージに対しての
ディスカッションなどを通して、
様々な「東北画」が生まれてきています。

2月8日[日] 櫛葉町成果展イベント

- 13:00-14:00 トーク「東北画とは何か?」
鴻崎正武(女子美術大学)×三瀬夏之介(東北芸術工科大学)
- 14:15-15:00 ライバーオーナンス「めぐるめく」
菅野みれ、佐藤潔静、百姓一揆、and more...

※終日、公開制作あり



東北画は可能か? 経歴

- 2010年 「東北画は可能か? 其ノ一」(アートスペース羅針盤／東京)
- 2011年 「東北画は可能か? 一方舟計画」(imura art gallery tokyo／東京)
「東北画は可能か? 一方舟計画」(大和川酒造 昭和蔵／福島)
- 2012年 「岡本太郎現代芸術賞」(川崎市岡本太郎美術館／神奈川)
- 2013年 「東北画は可能か?」(気仙沼リースアーキ美術館／宮城)
- 2014年 「山形ビエンナーレ2014」(東北芸術工科大学 本館7Fギャラリー／山形)
- 2015年 「東北画は可能か? 地方之国構想博物館」(東京都美術館 ギャラリーB／東京)
- 2016年 「つくることは生きること 震災『明日の神話』」(岡本太郎美術館／神奈川)
- 2017年 「東北画は可能か? 地方之国構想博物館」(鶴岡アートフォーラム／山形)
- 2018年 「山形ビエンナーレ2018」(東北芸術工科大学 芸術実習棟／山形)
- 2021年 「平成美術: うかたと瓦礫(デブリ)1989-2019」(京都市京セラ美術館 新館 東山キューブ／京都)
- 2022年 「東北画は可能か? 一生々世々」(Kakai Kiki Gallery／東京)

THE
LOCAL
TUAD ART GALLERY

HAMACUL
ART 2025
PROJECT

ハマカルアートプロジェクトについて
福島県の浜通りを中心とした十二市町村の一部では、
東京電力福島第一原子力発電所の事故により、
現在も部遊難指標が発表されています。
十二市町村全体として復興は進展しつつある一方、
依然として人口・経済などあらゆる面に
東日本大震災や原子力災害痕跡が残っています。
まだまだ挑戦していくべき課題があります。
ハマカルアートプロジェクトでは、アート活動によって、
もともと地域に伝承してきた文化などを
再発見していくことで、新しい価値を創出していく。
これまで地域を問わぬなか人々の関心を惹き、
新たな人の交流を促していくことを目指します。
経済産業省 地域経済政策推進事業
「ハマカルアートプロジェクト 採択事業」